PART4 「し」の識別

「し」の識別

【識別対象】

1　サ変動詞「　」の「　　」形
2　過去の助動詞「　」の「　　」形
3　「　　」の副助詞「し」

〈見分け方〉

1　「　　」と訳せる＝サ変動詞
2　「　」形＋**し**＝過去の助動詞「き」
3　「し」を省いても文意が通じる。＝副助詞　※副助詞「し」の用法①～③参照。

問九　「日ごろより聞きおよびしゆゑに、…」の傍線部と文法的に同じものはどれか。次の中から一つ選べ。

イ　そのむくいをほどこしたまふなり。
ロ　外の事を聞き入れずして、…
ハ　成人してのちに、はたして令尹といふ官人になれり。
ニ　駿馬をうしなはれし時、…
ホ　照名とてあきらかなる名があらはれて、天下にかくれなし。

〈Memo〉

第15講　PART4　確認問題

①「生き給ひたりし時、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　接続助詞の一部　　イ　副助詞　　ウ　過去の助動詞「き」の連体形

エ　形容詞の活用語尾の一部　　オ　サ行変格活用動詞の連用形　　カ　サ行四段活用動詞の連用形活用語尾

②「むかし、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でてあそびけるを、…」の傍線部の品詞構成として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名詞＋動詞＋助動詞　　イ　名詞＋助詞＋助動詞

ウ　動詞＋動詞＋動詞　　エ　動詞＋助詞＋動詞

③「昔の若人（わかうど）は、さるすける物思ひをなむしける。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　強意の係助詞＋サ行変格活用動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形

イ　強意の係助詞＋強意の副助詞＋過去の助動詞の連体形

ウ　願望の終助詞＋サ行変格活用動詞の連用形＋詠嘆の助動詞の連体形

エ　願望の終助詞＋強意の副助詞＋詠嘆の助動詞の連体形

④「いまし、*羽根といふところに来ぬ。」の傍線部と同じ意味・用法のものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

注　羽根…地名

ア　昔ありし家はまれなり。
イ　おのれし酒をくらひつれば、…
ウ　風はげしく吹きて、静かならざりし夜、…
エ　この歌をひとり言にしてやみぬ。

⑤　ア〜エの二カ所の傍線部の「し」が文法的に同じであるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名にし負はばいざ事とはむみやこ鳥わが思ふ人はありやなしやと
イ　忘れ草植うとだに聞くものならば思ひけりとは知りもしなまし
ウ　くらべこし振分髪（ふりわけがみ）も肩すぎぬ君ならずして誰かあぐべき
エ　あらき風ふせぎしかげの枯れしより小萩がうへぞしづ心なき

第15講　PART4　解答

問九　ニ（イは動詞「施(ほどこ)す」の連用形「ほどこし」の一部、ロは格助詞「して」の一部、ハは副詞「はたして」の一部、ホは形容詞「なし」の一部。）

第15講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① 「し」の上が連用形。さらに下が体言。したがって、この「し」は過去の助動詞「き」の連体形。よって、ウが正解。

② 「田舎わたらひ」は名詞。「し」は「する」と訳すことができること、下に連用形接続の過去の助動詞「ける〔けり〕」があることからサ行変格活用動詞の連用形。よって、アが正解。

③ 「なむ」は強意の係助詞。係り結びの法則で、文末は過去の助動詞「けり」の連体形になっている。「けり」は連用形接続なので「し」はサ行変格活用動詞の連用形。また、この「し」は物思いを「する」と訳せることからも判断できる。よって、アが正解。

④ この「し」は省いても文意が通じるので強意の副助詞。選択肢の中で強意の副助詞はイ。よって、イが正解。

⑤ アの一つ目は強意の副助詞、二つ目は形容詞「なし」の一部。イの一つ目はサ行変格活用動詞の連用形、二つ目は反実仮想の助動詞「まし」の一部。ウの一つ目は過去の助動詞「き」の連体形、二つ目は接続助詞「して」の一部。エは一つ目も二つ目も過去の助動詞「き」の連体形。よって、エが正解。

〔解答〕

①　ウ　　②　ア　　③　ア　　④　イ　　⑤　エ